

信州・諏訪圏精密工業の活性化人材の養成

実施機関：信州大学（総括責任者：山沢 清人）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

諏訪圏は世界有数の精密加工企業の集積地域であるが、次代の戦略的高度技術者が不足し、地域産業の行く末が心配されていること、また、企業の開発能力の向上が強く望まれている、などという課題を解決し、かつ現在の取組を総合的にさらに発展させるため、下記のとおり、人材の育成機能のほかに、技術支援とビジネス支援の機能を充実し、諏訪圏域製造業の活性化の技術的支援と人材の養成を行う。

(1) 人材養成機能: 修士課程修了者のために、先端精密加工・デバイス技術に関する博士課程の専門職コースを新設する。教育には、企業と産業技術総合研究所が連携する。

(2) 技術支援: 伝統的な精密加工技術を活かしながら更なる技術革新を進めるため、現場での問題点を整理し、その解決法を見出す(研究成果を得る)ための支援を行う。拠点にはオープンラボを新設し、在学生も自由に使用できる体制とする。

(3) ビジネス支援: 微細加工のマーケティングや開発のトレンドなどの情報を整理し、微細加工ビジネスを経営面から支援する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、地域産業のニーズを反映させた博士課程専門職コースカリキュラムを編成し、地域産業の活性化を進め得る高度な企業人材を養成しようとする取組であり、また、岡谷市を代表とする自治体と大学との間で効果的な連携が行われていることは評価できる。ただ、当該プロジェクトでは人材育成を博士課程で対応しようとしたため、輩出人材の数や地域企業への定着・貢献という有効性において課題も指摘されていることから、今後は、地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）とも適正に連携し、新しい博士課程専門職コースとして高い専門性を備えた多くの有能な人材を輩出し続け、地域活性化に貢献することを期待する。

- ・**目標達成度**：プロジェクト終了時点での養成人数は目標より 1 名少ない 5 名ではあるが、特許出願や技術相談、さらには平成 25 年に一般社会人を対象とした 1 年コースを開始した点などは評価できる。

- ・**人材養成手法の妥当性**：初年度の入学金・授業料の免除やインターンシップの必修化を伴った博士課程専門職コースカリキュラムの編成、及び教員・学生のアンケートや学生の自己評価

等によるカリキュラムの改善などは評価できる。今後は、修了者の地域活性化に向けた活躍を期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：岡谷市を代表とする長野県諏訪圏域6市町村の連携自治体の本取組に協力するとともに、諏訪圏サテライトキャンパスの整備と利用にあたって大学に便宜を図るなど十分な連携が見られるものと評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了者を会員とする信州・諏訪圏テクノ研究会が設置された点、及び修了者の地域活性化に貢献し得る活躍事例が出てきている点などは評価できる。しかしながら、総経費の割には博士課程養成人数が少ないことに加えて、アカデミックキャリアへの転出の例があること、また、地元企業に修了者が定着したとしても人材数が限られているために地域として見た場合の効果は限定的であることから、今後は、より多くの社会人を対象とし、地域への波及効果を高めることを期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：本博士課程専門職コースは平成26年度から信州技術系社会人育成プログラムに合流して継続するとともに、新たに大学COC事業にて設置された地域戦略センターにおいて産学官地域連携による地域貢献事業を実施することになっている点は評価できる。今後は、対象者の調査を行うなど、地域社会のニーズに一層沿うことを期待する。

・**中間評価の反映**：地域産業界や公的研究機関等と一体となって多様なカリキュラムを編成したことなどは、一般社会人を対象とした特別の課程の実施と併せて、中間評価を適切に反映していると評価できる。